Career.

people@random

仕事のヒントをこの人に聞く。

Q1. 20代でやっておくべきこと
少なくとも5年後、できれば10年後のビジョンを持ち、そのための計画を立てて、少しずつ実行に移す。

Q2. 座右の銘
Have fun!

Q3. これまでの最大の自己投資
貯金と大学時代にNTT株で得た利益を充てた23歳のときの留学費用。これがなかったら今の自分はいない。

Q4. ストレス解消法
夫、友人と一緒にワインを飲みながらおしゃべりすること。笑うこと。

Q5. 趣味
乗馬と海辺のリゾート地への旅行。

ライトハウス・ファイナンシャル・イニシアティブス
ファイナンシャルアドバイザー・41歳

ドゥルーリー和枝さん

ニッチ市場狙いで成功したロンドンのマネー専門家

在英法人の優遇された税制を利用しての資金運用、節税対策、英国居住だから利用できる優れた金融商品や年金や保険について、日本人の目から見たファイナンシャル・プランニングをアドバイスできる唯一の専門家がドゥルーリー和枝さんだ。日本では証券会社や保険会社の社員が行うことが多いが、英国では独立したアドバイザーが英国の金融商品の中から選び、顧客に勧めるのが主流。和枝さんの場合も大手ファイナンシャルアドバイザー会社に籍を置くものの雇用形態は、限りなくフリーランスに近い。

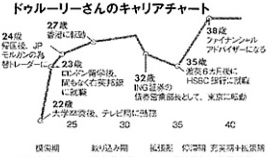
和枝さんが、現職に転身したのは、3年前のこと。それ以前は外資系投資銀行や証券会社で、15年近くキャリアを積んできた。もともと大学卒業後はテレビ局に就職。しかし実力主義の外資系金融への転職を念頭に1年で退職し英国へ留学、金融の勉強をしながら現地での就職を狙った。

間もなく在英邦銀から声がかかり、ディーリング・ルームでのアシスタントの職を得る。ここで経験と英語力を身につけ1年後に帰国。外資系投資銀行に就職し、27歳で香港へ。「当時の香港は、多くの日本人投資家がいたのに、日本語を話せる営業マンは極めて少ないニッチ・マーケット。一からの新規開拓とはいえ、競争相手が少ない分シェアは取れるはず」という読み通り、取引の量が想像以上だったのはもちろん、香港では同業他社からの2度の引き抜きを受ける。32歳で債券営業部長として帰国し、機関投資家に向けて数百億円単位の取引を展開していくが「顧客の会社のために利益を作るよりも、もっとダイレクトに人の役に立つ仕事がしたくなって」、その第一歩としてファイナンシャルプランナーの資格を取得した。

英国人の夫と共に英国に移住したのが35歳のとき。一度は現地の大手銀行に就職するが、「人の役に立つ仕事がしたい」という気持ちと、資産運用や節税に対するもともとの興味から、ファイナンシャルアドバイザーの資格取得と開業を決意する。

「日本語で難解な金融商品を説明できるアドバイザーがいない英国は、またしても私にはニッチ・マーケット。資格を取って仕事を始めれば、きっとうまくいくと思いました」との言葉通り、開業以来、顧客数も収入も年々右肩上がりに増加している。人の役に立っているという実感、経済的な安定、マイペースで働ける勤務形態と揃った「一生続けられる仕事」に出会えた満足感は大きい。

ドゥルーリーさんのキャリアチャート



1965年生まれ。立教大学卒業。テレビ局勤務後、英国留学。在英邦銀、外資系金融企業の東京支社、香港支社勤務等を経て、38歳、英国でファイナンシャルアドバイザーとして開業

大人の恋愛小説で日経小説大賞受賞

日本経済新聞社が創刊130周年の記念事業として創設した「日経小説大賞」。その第一回の受賞作が、武谷牧子さんの「テムズのあぶく」に決定した（同社より07年春刊行）。ロンドンを舞台に、男女の出会いから相手の死による別れまでこまやかなタッチで描いた大人の恋愛小説だ。

「中年の男女が人生で最高の恋を実らせるように見守り、祈る思いで書きました」

武谷さんは慶応大学卒業後、教職を経て専業主婦に。創作活動に入ったきっかけは夫の駐在先のシカゴの書店でふと目に留まった「小説募集」の告知だった。95年、43歳のときに、「小説すばる新人賞」を獲得、ほぼ10年ぶりの第二の賞となった。「遅咲きですよね」と微笑む武谷さん。「この賞をきっかけに、より高い志を持ち、様々な要素を織り込んだ織り物のような小説を書いていきたいと思います」

武谷牧子さん
54歳
作家

2007
January
People
flash

取材・文・安田和代（KRess Europe）、鰍 幸子　写真・朝倉利恵（KRess Europe）、弘兼奈津子